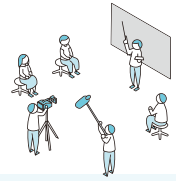


おのまち 地域おこし協力隊活動記



映像制作の変化

こんにちは！地域おこし協力隊の山田淳輝です。
今回は、2022年になって初めて私が担当する回です。本年もどうぞよろしくお願ひします。

昨年、7月に小野町に引越してきて、私の人生がガラッと変わりました。人間関係や仕事の内容など、千葉県ではできなかった経験をさせていただいています。私は風景の写真を撮るのが好きなのですが、福島県には小野町に限らず撮影したくなるような場所が多くて楽しんでいます。

さて、それでは本題です。今回は「映像」について現在までの学びを振り返るように書かせていただきます。まだまだ若輩者の意見です。

昨年、「合志市クリエイター塾」という塾に参加しました。そこでは、協力いただいた4自治体のまだ世の中に知られていない商品、名産のPR動画を制作するという課題がありました。東京の老舗CM制作会社・ROBOTさんに伴走してもらいながら、初めて会う塾生同士でチームを組み、動画を制作していくというもので、とても貴重な経験となりました。

ROBOTさんは1980年代からCM制作をされているので、制作の一連の流れは、その歴史通り確固たるものが確立されていました。

まず、企画段階でPRするものの良さや本質を引き出せているものでなければ、撮影をしても良い映像は撮れません。企画段階では、撮影するカット割や、台詞、撮影場所、世界観などを決めます。この段階で良くできている案ほど、良い映像が出来る上ることが多いそうです。

このように、企画段階でしっかりと作り込み、クライアント

トのOKが出るまで企画を練り直すことが今までの映像制作だったようですが、現在では変わってきているようです。企画そのものがなく、もしくはあまり考え込まず、早く撮影、編集をして映像を作ってしまう流れがあるそうです。そのような作り方をしているのは誰か分かりますか？

それはYouTuberです。そもそもYouTuberはクライアントなどなく、作りたいうように映像を作るところからスタートするので、企画を練る必要がなかったのかもしれない。ここ4、5年で日本でも認知され始めているYouTuberですが、最近では彼らの口から「企画」という言葉をよく聞くようになりまし

た。しかし企画段階でしっかりと絵コンテも作り込み、撮影に臨んで、YouTuberは多くないのではないのでしょうか。なぜなら、彼らは「毎日投稿すること」が基本としてあるため、絵コンテなどの作り込みをできなくなってしまう可能性があるからです。

いわゆるトップYouTuberには、チームを組み分業制にすることで、毎日投稿を成立させる人や、企画を作る専門の

会社に依頼する人もいます。このように、現在では新たな手法も確立されつつあるようです。だからと言って、企画段階から時間をかけた映像が評価されないかという点、そうではありません。

昨年は、小野高校放送部の生徒が撮影、編集した動画を再編集させていただく機会がありました。私が編集する前の段階で構成がはつきりとしており、すでにコンセプトが出来上がっている映像でした。そのため、編集もしやすく、見やすく言いたいことが伝わる映像になっていました。顧問の先生も「企画がきちんとしていると、良い映像ができる」と仰っていました。

12月には同校の研究発表会を撮影、編集させていただきました。このときは企画段階がなく、すぐに撮影となりました。仕事によっては、与えられた環境の中で、最大限のクリエイティブを発揮しなければならぬこともあります。いつも十分な時間、資金、資源がある訳ではありません。撮影前にイメージトレーニングをし、当日は考えられるあらゆるアングル、素材を撮り、雑音やカメラのブレなどが無いように気を遣いまし

た。今思えば「もっと別の素材があれば」ということもありましたが、それは次の機会に生かすしかありません。今回の撮影は、いわゆるYouTuberのような映像の作り方となりました。ざっくり言ってしまうと、行き当たりばったりです。しかし企画を練ったとしても、すべてが企画通りいかなかったり難しいところがあります。ただクリエイターとして最大限の努力を重ねていきたいと思っています。

今回は映像制作の変化について書かせていただきました。いかがだったでしょうか。今後も、小野町に貢献できるような映像を作れるよう、勉強を続けていきます。

今回の担当は…



山田 淳輝 隊員
担当/情報発信分野
主な活動場所/
つどっておのまち

※本文中にある小野高校の映像はYouTubeで視聴することができます。
小野町地域おこし協力隊のInstagram、Twitter、Facebookなどで告知しますので、フォローよろしくお願いします。